



(R8.1.19)

医療福祉の地域創造会議 通信 第142号

第135回ワーキンググループ会議 (R7.12.18)

「困ったときはお互いさま！住民同士のたすけあい」

●話題提供者 特定非営利活動法人 元気な仲間
代表理事 谷 仙一郎 さん



NPO 法人 元気な仲間

行政に頼るだけでなく、地域の住民自らが地域のためにできることを、協力して行っていきながら、仲間が元気に過ごせるまちづくりのきっかけになれば…との想いで平成15年に設立。
住み慣れた地域の中で、その人らしい普通の暮らしをしていけるといいな。

12月のワーキンググループ会議は、NPO法人 元気な仲間の谷さんに話題提供をしていただきました。

22年前にNPOをつくり、こんなことができるという目標に向けて取り組んできた。それによって地域がだんだん変わっていくのが見えたので、うちが参考になり増えていくといいな。

目標を持って取り組むと面白いことが起こってくると思うので、皆さんも面白いことがあればやっていただけるといいな。と話されていました。

たすけあい高島 (有償ボランティア)

地域住民自らが生活の中の困りごとを助け合う取り組み

利用申込

1時間800円

たすけあい活動依頼

利用会員

たすけあい

活動会員

掃除・洗濯、食事、除草・剪定、外出サポート、買物、傾聴・見守り、通院付き添い、片付け、整理

「きょういく(今日行く)」と「きょうよう(今日用)」
高齢になっても元気で過ごすために大切。それを実現するために、地域の居場所づくりや役割づくりが必要。
自分が人に必要とされ、社会に貢献していると実感できることで、充実や幸福を感じるのでは。→元気の源

役に立ちたい→役に立てた→幸せを感じる
新しい色を得ることができた。
地域に安心して生活するためのつながりができた。社会に貢献していることで充実感が得られる。健康を維持、留意するようになった。

参加者の声

- ・当事者はなかなか言いにくいので、発信しやすい仕組みづくりをしていきたい。
- ・町内会や地域活動を作れたらな、という思いでスポーツなど〇〇杯を作っている →そのために練習に行く→早く寝る→健康維持 →地域へ出ていく→社会参画
- ・地域性と取り組みがうまくフィットしたように感じた。このようなモデルがあれば他の地域でもできそう。
- ・継続していくことが自分たちにもできることではないか。
- ・声に出せない方を切り捨てにならないようなシステム、そのような方に目を向けることが大事な。
- ・高齢の方でなかなか買い物に行けない → ボランティアの仕組みを広げていくことで可能性があるのでは。
- ・「たすけあい高島」の東近江市版「i・mart」「ほんなら堂」
制度で出来ないことを谷さんが切り開いた。
- ・自治会、PTA 活動の低下が課題 → いかにつながりを作っていくか
- ・滋賀県すごいな(大阪の方から)
- ・必要とされている方に、自分ができることをやりがいを持ってつなぐというシステムがいい。
- ・きっかけ、モチベーションは？ → 自分たちの老後のため、維持できる仕組みづくりをしないといけないと考えた。
良かった、助かったなど言われると嬉しいし、人から感謝されると幸せを感じる。
- ・後継者は？ → 大きいところと一緒に運営していく方法を考え中。
- ・滋賀県HPや、まちかどケアネットにさまざまな支え合いの情報記載されている。

【次回ワーキンググループ会議】

○日 時：令和8年1月22日(木) 18:30~20:00
○場 所：滋賀県庁新館7階大会議室(Web可)
○テーマ：『10年後の彼と地域を見つめた就労支援』
○話題提供者：一般社団法人 Team Norishiro
代表 野々村 光子 さん

医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529
e-mail info@chiikisouzoukaigi-s-higa.jp